

平成7年度厚生省心身障害研究

「多胎妊娠の管理およびケアに関する研究」

多胎妊娠と育児—第2報 品胎以上妊娠

(分担研究：多胎児に関するケアのあり方に関する研究)

分担研究報告書

研究協力者 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院周産期センター

堀内勁 笹本優佳

### 要約

昨年、多胎の妊娠中から出産後1年までの多胎妊娠・育児についてアンケート調査を行ったが、品胎以上については双胎と異なった問題が想定される。したがって今回は同じデータを用いて、双胎と品胎以上妊娠についての比較をおこない、品胎以上の場合の特質について検討した。その結果品胎以上妊娠では、全妊娠期間を通して、子を持つ喜びと、それに付随する種々の要因に対する不安という相反する心理を抱き続け、一種のアンビバレント状態が持続しているといえる。それに加え、家族・社会の援助体制の不備のためさらに、子育てを困難にしている。したがって育児支援のために

1. 妊娠期間を通して出生前育児指導などの小児科の関与
  2. 心理的に不安定な状態にあることからカウンセリングの充実
  3. 多胎育児の実際面を指導する保健婦の再教育
  4. ボランティアを含む、公的ヘルパー制度の導入
  5. 多胎の会などの自助グループの育成
- などの実現が望まれる。

見出し語 品胎、双胎、育児

### 研究方法

多胎育児の実態と両親の妊娠・育児中の心理を知るため、郵送によるアンケート調査をおこなった。今回はそのうち、品胎以上と双胎とを比較した。

協力依頼施設は 札幌市立病院 埼玉医科大学総合医療センター 松戸市立病院 神奈川県立こども医療センター 北里大学 聖マリアンナ医科大学 大阪府立母子総合医療センター 鹿児島市立病院である。

アンケート対象患者数 441名で回答者数 279名、回収率 63.2%であった。

## 結果

表1 胎 数

	双 胎	品 胎	4 胎	5 胎
実数	242	29	4	4
%	86.7	10.4	1.4	1.4

表2 背 景

	双 胎	品 胎 以 上
在胎週数	34.5 ± 3.5	32.1 ± 2.9
出生体重 (g)	1978 ± 583	1475 ± 495
帝切率 (%)	62.4	100
不妊治療率 (%)	26.4	83.8

品胎以上と知ったときの母親の心理は単胎より嬉しいと感じたものは74% (双胎62%)、驚き90% (双胎94%) と比較的喜びと冷静なのは不妊で悩んでいたものが多いためと考えられる。逆に品胎妊娠に対する不安78% (双胎72%)、経済的不安62% (双胎51%) と不安を感じる傾向が強かった。

早産管理のため入院期間は品胎以上妊娠5.0 ± 7.0週、双胎2.5 ± 3.1週であった。心理面では胎児のために頑張ろう98% (双胎99%)、安静がづらい67% (双胎80%)、大変なので妊娠継続を望まない14% (双胎13%) と入院期間が長いわりには胎児に対してポジティブな気持ちが持続している。

出産直後は嬉しい95% (双胎98%)、解放感81% (双胎93.6%) だが、育児に対する不安80% (双胎73%)、低出生体重に対する不安89% (双胎75%)、合併症に対する不安89% (双胎74%) と品胎以上での早産率との関連が伺われる。

児が入院中は手元にいないための強い不安27% (双胎48%)、病状に対する不安65% (双胎68%) で、専門施設への信頼感84% (双胎86%)、毎日面会したい94% (双胎86%) と手元にいない不安感より、専門施設に預けた安心感を表明していた。

品胎以上では帝切率が高いため生後1-3日に始めて児と対面することが多く、児の入院期間も3月以上にのぼるものが21.6% (双胎9.7%) もあった。

児の退院の際は嬉しい100% (双胎96%)、子育てへの決意93% (双胎96%) と前向きに考えているが、反面体力に対する不安79% (双胎68%)、経済的不安78% (双胎53%)、病院に預かって欲しい47% (34%) と不安は明らかに双胎より強く、同時退院希望は50% (双胎78%) であった。また兄弟がある場合はその児への対応への不安74% (双胎46%) を訴えている。

育児が現実化する生後1年以内でも育児が楽しく充実している62% (双胎56%)、

忙しいが頑張ろう94%（双胎97%）と肯定的であるが、実際には忙しすぎて疲れ切った66%（双胎54%）、自分の描いた人生と異なってしまった50%（双胎46%）と否定的になるものは僅かに多かった。しかし一時でも育児から離れたい78%（双胎98%）、子供などいない41%（双胎45%）と、不妊の時期があったためか双胎よりも前向きであった。

## 考察

品胎以上妊娠では、双胎妊娠と比較して妊娠初期から、多胎であることの受け入れは良好であるが、反面妊娠そのものに対する不安や、経済的不安等を訴えるものも多い。これは実際にも早産率が高いこと、また諸家の報告によれば、在胎32週以前の出産では合併症や死亡率も高いことから当然といえよう。かかる傾向は妊娠期間中にわたって持続し、胎児のためにつらい安静にも耐えようとする努力に表れているが、妊娠に拒否的になるものも少数ながら見られる。出産そのものを嬉しいと表現する反面、解放感を感じるものは相対的に少なく、子育てや合併症等の将来に対する不安も強い。児が入院中も、様々な不安を感じるものが多く、従ってスーパーツインの両親は多胎を受容しようとする前向きな感情と、未知の事態に対する不安を抱くという、きわめて不安定な状態におかれている。子ども達が退院するということに喜びを強く感じてはいるものの、入院期間の延長を望むという相反する面もある。また実生活を乗り切ることができるのか、合併症などの児に対する不安だけでなく、自分自身に対しても不安を感じている。生後1年以内の生活でも多胎の困難な育児に肯定的心理を持つものが多いが、実際の忙しさに疲労感や否定的心理に陥ってしまう。

また実際も多人数の子育てに対するマンパワーや、経済的負担も大きく、医療を受ける機会の多い乳幼児期では、単胎の数倍の医療機関への受診となっている。

このような多胎家族に対する育児支援、相談相手等の支援体制は社会的あるいは公的には不十分で、核家族化した現在においても、親族により支えられる傾向が強い。しかし、経済的困難さにもかかわらず、ベビーシッターを雇うケースは双胎家族より多いことは注目される。

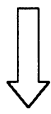
以上のことから、

1. 妊娠期間を通して出生前育児指導などの小児科の関与
2. 心理的に不安定な状態にあることからカウンセリングの充実
3. 多胎育児の実際面を指導する保健婦の再教育
4. ボランティアを含む、公的ヘルパー制度の導入
5. 多胎の会などの自助グループの育成

などの実現が望まれる。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 要約

昨年、多胎の妊娠中から出産後 1 年までの多胎妊娠・育児についてアンケート調査を行ったが、品胎以上については双胎と異なった問題が想定される。したがって今回は同じデータを用いて、双胎と品胎以上妊娠についての比較をおこない、品胎以上の場合の特質について検討した。その結果品胎以上妊娠では、全妊娠期間を通して、子を持つ喜びと、それに付随する種々の要因に対する不安という相反する心理を抱き続け、一種のアンビバレント状態が持続しているといえる。それに加え、家族・社会の援助体制の不備のためさらに、子育てを困難にしている。したがって育児支援のために

1. 妊娠期間を通して出生前育児指導などの小児科の関与
  2. 心理的に不安定な状態にあることからカウンセリングの充実
  3. 多胎育児の実際面を指導する保健婦の再教育
  4. ボランティアを含む、公的ヘルパー制度の導入
  5. 多胎の会などの自助グループの育成
- などの実現が望まれる。